

エコアクション21 環境活動レポート



対象期間：平成29年4月～平成30年3月

発行年月：平成30年6月

◎奥大井接阻湖カヌー競技場



◎南アルプス国立公園 県営光岳小屋

静岡県川根本町

～ 目 次 ～

I	組織概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P1
II	対象範囲	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P2
III	環境方針	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P5
IV	環境目標	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P7
V	環境目標の実績	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P11
VI	環境活動計画と取組結果、評価及び次年度の取組内容	・・・・・・・・	P16
VII	その他 平成 29 年度の活動内容紹介	・・・・・・・・	P30
VIII	川根本町が実施する町民向け補助事業	・・・・・・・・	P33
IX	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	・・・・・・・・	P35
X	代表者による全体評価と見直しの結果	・・・・・・・・	P37

I 組織概要

1 事業所名及び代表者

静岡県^{はいばらぐんかわねほんちょう}榛原郡川根本町 代表者 町長 ^{すすき としお}鈴木 敏夫

2 所在地

【川根本町役場本庁舎】

〒428-0313 静岡県榛原郡川根本町上長尾 627 番地

【川根本町役場総合支所】

〒428-0411 静岡県榛原郡川根本町千頭 1183 番地の 1

3 事業概要

一般行政事務、保育、簡易水道事業などの町民の日常生活に密接に関係する行政サービスの提供。

4 事業規模等

平成29年度一般会計当初予算 65億4,000万円

職員数（嘱託・臨時職員を含む） 253名

5 環境管理責任者

川根本町副町長 ^{もり きよし}森 紀代志

6 担当課

川根本町くらし環境課環境政策室

電話 0547-56-2236 FAX 0547-56-1117

E-mail kurashi-kankyo@town.kawanehon.lg.jp

ホームページ <http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp>

Ⅱ 対象範囲

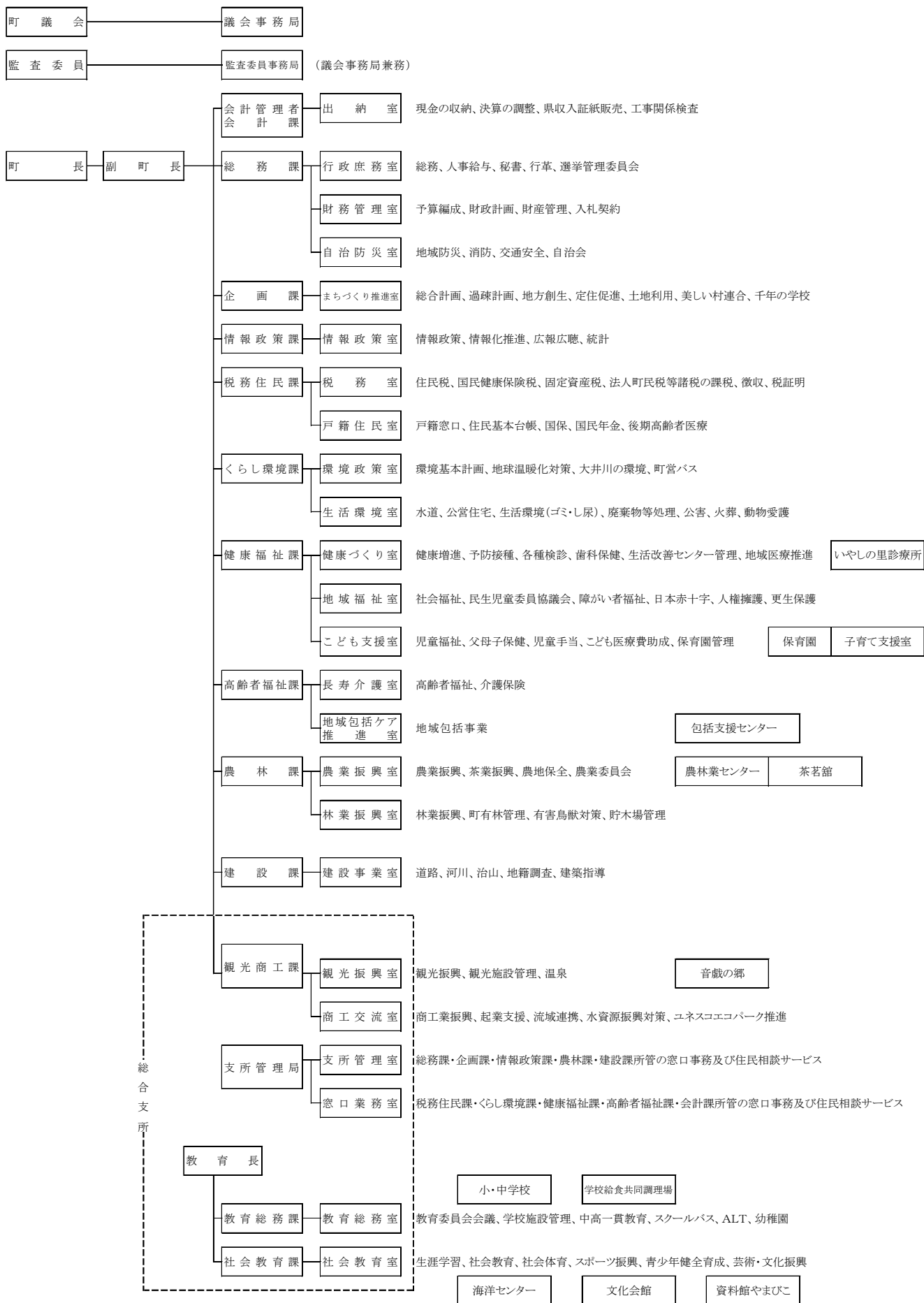
1 対象施設

施 設 名	備 考（詳細等）
役場本庁舎	
役場総合支所	
町立保育園等	桜保育園・三ツ星保育園・地名保育園・子育て支援施設
農林業センター	
フォーシなかわね茶茗館	
奥大井音戯の郷	
町立小中学校（6校）	本川根中・中川根中・本川根小・中川根第一小・中央小・中川根南部小
学校給食共同調理場	
本川根B＆G海洋センター	
文化会館	
総合施設	山村開発センター 他
消防署	島田消防署川根北出張所
医療施設	いやしの里診療所
温泉施設	接岨峡温泉会館 他
宿泊施設	ウッドハウスおろくぼ 他
観光施設	自然休養村管理センター 他
キャンプ場	池の谷ファミリーキャンプ場 他
水道施設	水道施設（直轄管理）
スポーツ施設	町営グラウンド 他
福祉施設	川根本町福祉センター 他
その他施設	資料館やまびこ 他
街路灯	

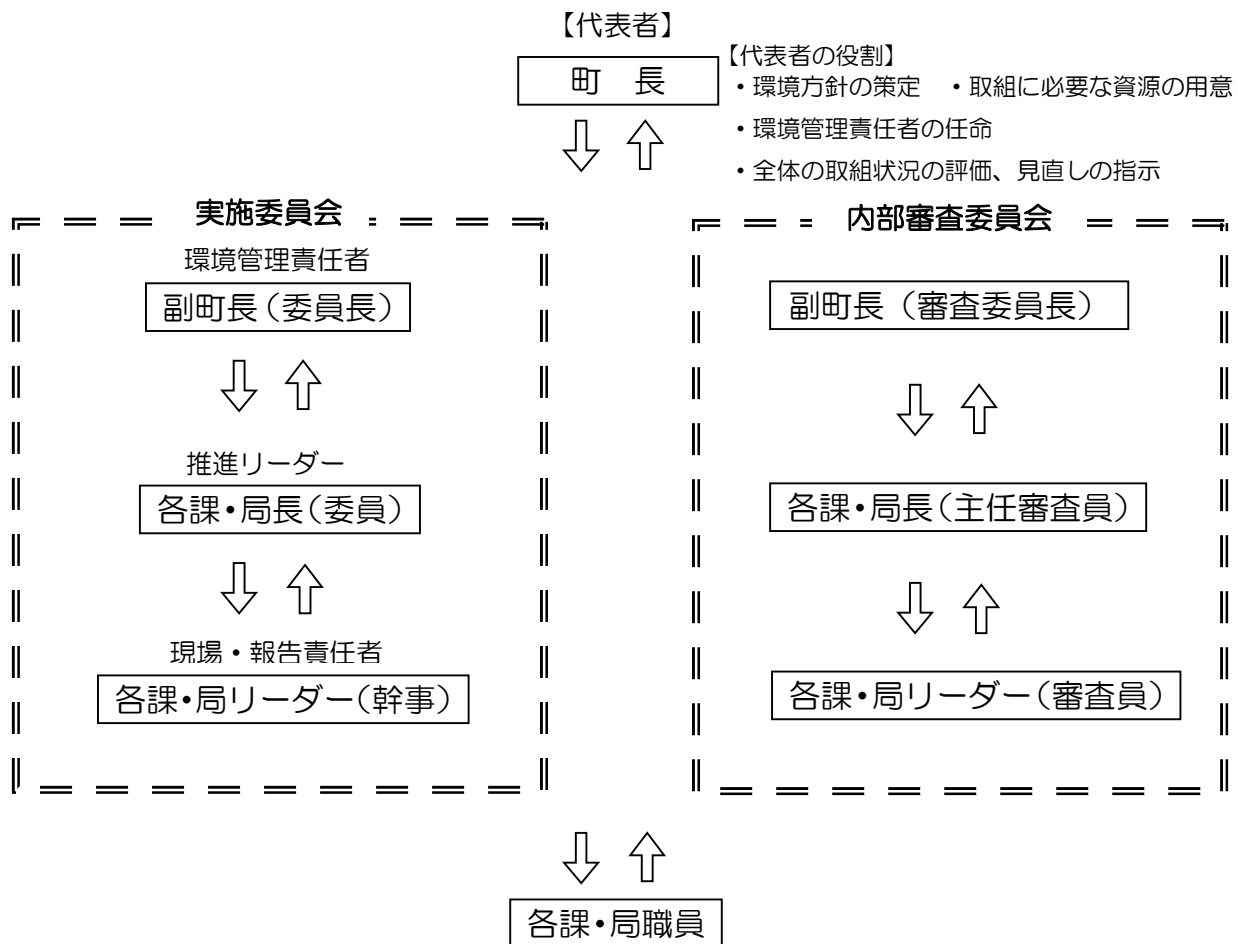
※一部施設（指定管理者施設等）は独自での推進とし、温室効果ガス排出量等の把握・報告のみ対象としています

2 対象組織

平成29年度 行政組織図（平成29年4月1日施行）



3 実施体制



4 実施体制における役割

【実施委員会】

- ☐ 委員長（副町長）
 - ・実施委員会の統括
- ☐ 委員（各課・局長）
 - ・各課・局におけるエコアクション推進活動の統括
- ☐ 幹事（各課・局リーダー）
 - ・各課・局におけるエコアクション推進活動のリーダー的業務
 - ・各課・局における温室効果ガス等排出状況の報告及び検証

【内部審査委員会】

- ☐ 委員長（副町長）
 - ・内部環境審査の計画及び実施の指示と統括
 - ・町長への内部環境審査の結果報告とシステム改善のための助言
 - ・エコアクションガイドライン不適合事項への再発防止策について要求
- ☐ 主任審査員（各課・局長）
 - ・実施計画に基づく内部審査の実施
 - ・審査報告書及び審査統括報告書の作成
 - ・被審査部門に対するシステム改善のための提案
- ☐ 審査員（各課・局リーダー）
 - ・主任審査員の補助

Ⅲ 環境方針

【基本理念】

近年、地球温暖化をはじめとして、経済活動が地球の環境に与える影響の大きさが広く認識されるようになりました。自然界における環境は大気・水・土壌・生物等の間を物質が循環し、生態系が微妙な均衡を保つことによって成り立っています。私たちを取り巻く昨今の環境問題は、健全な物質の循環が阻害され、資源やエネルギーを大量に使用する現代社会のあり方そのものに根ざしています。このため、現在の社会経済の構造、私たちの生活のあり方と価値観を環境の視点からも変革していくことが求められています。

一方、私たちの地域は、古来、豊かな自然の恵みを享受しており、自然を持続的に利用する知恵と技、自然を慈しむ文化を育んできました。自然環境に必要以上に負荷を与えない自然共生型の生活様式をつくりあげ、再生産可能な資材を有効に活用する 21 世紀の社会の仕組みを構築していく上で、農山村の暮らしはモデルとなりうると思います。今後もこの自然を守り育むとともに、環境負荷の少ない方法でその活用を図り、本来の暮らし方、物づくりや連携・交流のあり方を提案・実践していくことが「川根本町」の使命と考えています。

こうした基本的な認識の下で、環境への負荷を抑える取り組みを効果的に行う実践的取り組みとして、川根本町役場が、「エコアクション21」を導入します。職員が自分の仕事を通じて、環境との係りに気付き、環境への負荷を減らすため、目標を設定し、計画的に取り組み、結果を評価し、見直し実行する、継続的な取り組みを実践します。この取り組みを通じて、環境への取組の推進だけでなく、経費の節減など行財政改革の推進、目標管理の徹底、法令順守など役場管理の品質や信頼性の向上を目指します。

川根本町の町の将来像、「水と森の番人が創る癒しの里 川根本町」～豊かな自然、お茶と温泉に彩られた、だれもが安心して暮らせるふるさと～実現には、これからも自然環境と生産・生活環境を調和させることが欠かせません。それには、エコアクション21の取り組みが、その「手引き」となり、私たち地域がこれまで培った知恵や知識、様々な地域資源に対する知見を活かすことが求められます。役場組織だけでなく、自治会などの地縁型コミュニティーに加えNPO、事業所、地域内外個人・団体など、様々な組織が目的を相互に共有して穏やかな連携をしながら活動を継続することが必要と考えます。

【行動指針】

- ①役場の職員は、「水と森の番人」という川根本町の使命を自覚し環境負荷の低減に配慮した業務を執行します。町全体の意識の向上を図るため、広く町民にも啓発・広報・事業活動を推進します。
- ②リサイクルやグリーン調達を積極的に行い、公共工事やイベントなどの事業における環境負荷排出抑制に努めます。
- ③業務における省資源・省エネルギーを実践し、電気・石油・水・紙の使用量を減ずることに努めます。
- ④環境関連の法令及びその他の要求事項を遵守し、一層の環境保全に取り組みます。
- ⑤川根本町環境基本計画を制定して、環境にやさしい社会を実現するための施策を推進します。
- ⑥環境目標、環境活動計画を定め、かつそれを定期的に見直すことにより継続的な環境改善に努めます。
- ⑦この環境方針は、全職員に周知させ、町民にも公開します。

平成19年7月27日 制定

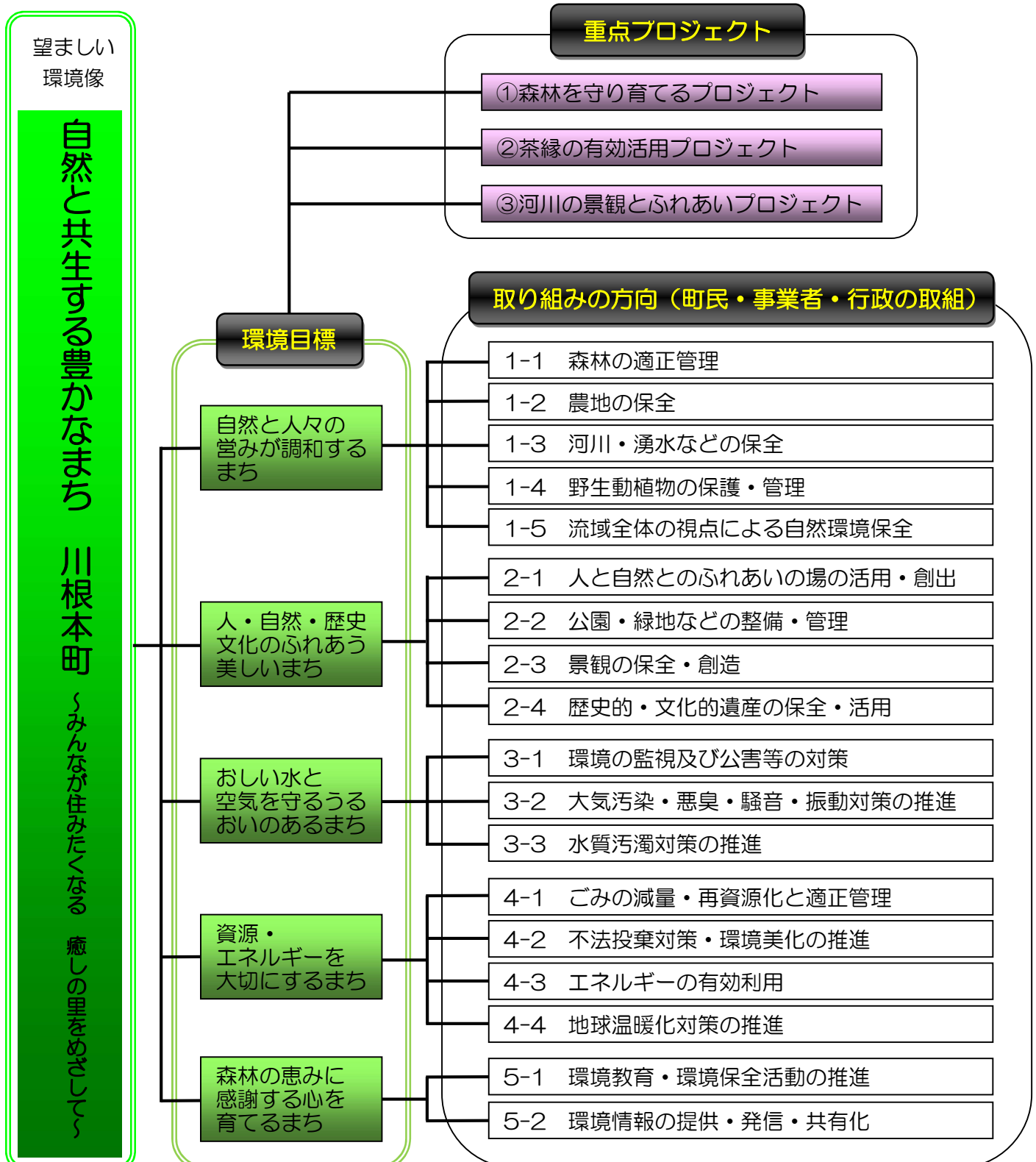
平成20年3月10日 改定

川根本町長 鈴木 敏夫

Ⅳ 環境目標

1 川根本町環境基本計画に定める環境目標

川根本町環境基本計画は、町の美しい景観や清らかな大井川、特産物である川根茶の香る茶畑や豊かな森林を守るため、地域をはじめ町全体、さらには地球規模で抱える問題へ対処するため、町民・事業者・行政の三者が連携・協力して環境保全に向けた取り組みを実行するための、総合的かつ長期的な施策の大綱です。



2 エコアクション21 で取り組むべき項目の目標

町の事務及び事業に伴う環境負荷について把握し、行政として自ら環境負荷を低減させるため、川根本町地球温暖化対策実行計画を策定（H29.1）しています。

（１）川根本町地球温暖化対策実行計画に基づく平成 32 年度の目標〔中長期目標〕

○温室効果ガス総排出量の削減目標

(kg-CO2)

(基準値) H27 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	(目標年度) H32 年度	削減率 (%)	削減量
1,877,256	1,839,711	1,802,166	1,745,848	1,689,530	10	187,726
	2%削減	4%削減	7%削減	10%削減		

○ゴミ排出量の削減目標

(kg)

(基準値) H27 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	(目標年度) H32 年度	削減率 (%)	削減量
10,338	10,266	10,193	10,121	10,049	2.8	289
	0.7%削減	1.4%削減	2.1%削減	2.8%削減		

○紙使用量の削減目標

(枚)

(基準値) H27 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	(目標年度) H32 年度	削減率 (%)	削減量
1,651,350	1,601,810	1,535,756	1,469,702	1,403,648	15	247,702
	3%削減	7%削減	11%削減	15%削減		

○総排水量の削減目標

(m)

(基準値) H27 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	(目標年度) H32 年度	削減率 (%)	削減量
37,810	37,659	37,508	37,356	37,205	1.6	605
	0.4%削減	0.8%削減	1.2%削減	1.6%削減		

○グリーン購入率目標

(%)

(基準値) H27 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	(目標年度) H32 年度	購入率 (%)	向上率
72	79	86	93	100	100	28
	7%向上	14%向上	21%向上	28%向上		

（２）平成 29 年度全体目標〔短期目標〕

- ◇ CO2 排出量を平成 27 年度対比 2%削減する。その他の項目も平成 32 年度の目標達成に向け、段階的な削減又は向上に取り組む。
- ◇ 電力使用量については、7～9月を重点強化期間として節電に取り組む。

(3) 各課（局・施設）の取組目標

課（局・施設）名	取 組 目 標
総務課	・紙使用量を平成 27 年度基準値に対し、3%削減する
企画課	・業務説明資料(行政資料)の作成、改訂、更新による事務の合理化・効率化を図る
情報政策課	・告知端末機及びホームページの利活用による紙資源使用の削減
農林課	・野生鳥獣による農林作物等への被害軽減を図る
農林業センター	・町民の手本となる圃場管理
茶茗館	・茶茗館環境エコの実践、啓発
建設課	・紙使用量の削減
高齢者福祉課	・資源の再利用と経費削減への意識向上を図りながら、厳格な文書管理を実施する
健康福祉課	・健康福祉イベントを通じた温暖化防止・環境美化の PR
桜保育園	・食育活動の充実 ・環境教育の推進
三ツ星保育園	・園生活の中での栽培やゴミの分別等の活動を通して、環境教育の推進に取り組む
くらし環境課	・業務説明資料(行政資料)・業務マニュアルの作成・更新を行い、事務の合理化と効率化を図る
税務住民課	・資源の再利用及び PC 等の電源 OFF の徹底
会計課	・電力使用の削減 ・CO2 排出量の削減
議会事務局	・議員の資源節約の意識を啓発し、事務の合理化を推進する
支所管理局	・エコアクションへの取り組みの啓発
観光商工課	・南アルプスユネスコエコパークの普及啓発、エコツーリズムの推進

課（局・施設）名	取 組 目 標
奥大井音戯の郷	・ 音戯の郷施設環境エコ活動
教育総務課	・ 環境教育の推進
学校給食共同調理場	・ 学校給食の残量の減量
社会教育課	・ 環境教育の啓発
文化会館	・ 施設利用者数を維持し、電気使用量を前年度より減らす ・ 町民の環境意識の向上
B & G海洋センター	・ エネルギーの有効活用による施設利用者への快適な利用環境の提供

V 環境目標の実績

1 短期目標

平成 29 年度の取組結果は以下のとおりです。

○温室効果ガス総排出量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (H29) 《目標値》	目標 削減率	H29 実績 《実績値》	増減率
1,877,256 kg-CO ₂	1,839,711 kg-CO ₂	△2%	2,001,219 kg-CO ₂	6.6%

○ゴミ排出量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (H29) 《目標値》	目標 削減率	H29 実績 《実績値》	増減率
10,338kg	10,266kg	△0.7%	10,338kg	0%

○紙使用量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (H29) 《目標値》	目標 削減率	H29 実績 《実績値》	増減率
1,651,350 枚	1,601,810 枚	△3%	1,665,950 枚	0.9%

○総排水量

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (H29) 《目標値》	目標 削減率	H29 実績 《実績値》	増減率
37,810 m ³	37,659 m ³	△0.4%	40,158 m ³	6.2%

○グリーン購入率

基準年 (H27) 《実績値》	目標年 (H29) 《目標値》	目標 向上率	H29 実績 《実績値》	向上率
72%	79%	7%	65.4%	△6.6%

○温室効果ガス排出量の内訳

平成29年度 エコアクション21取組実績【第4四半期】

【排出係数】
 ・電 気：0.497
 (H27年度中部電力排出係数)
 ・灯 油：2.492 ・A重油：2.71
 ・LPG：3.002 ・ガソリン：2.322
 ・軽 油：2.586

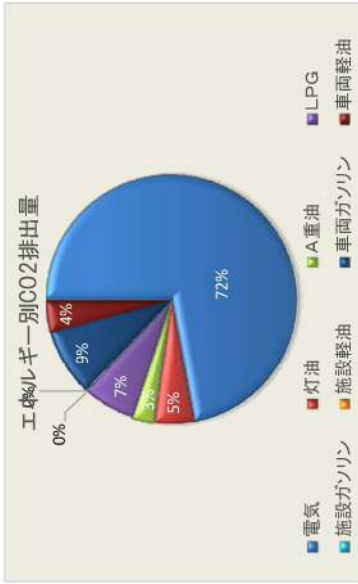
目 標	平成27年度対比2%削減
実 績	6.6%増加

目 標	平成27年度対比2%削減
実 績	6.6%増加

1. CO2排出量

(1)エネルギー別

	電気	灯油	A重油	L P G	施設ガソリン	施設軽油	車両ガソリン	車両軽油	合 計
H 2 9	1,443,353 72.1%	101,483 5.1%	56,097 2.8%	136,157 6.8%	447 0.0%	3,641 0.2%	177,654 8.9%	82,388 4.1%	2,001,219 100.0%
H 2 7 (基準年度)	1,340,923 71.4%	115,165 6.1%	58,536 3.1%	97,378 5.2%	709 0.0%	3,612 0.2%	175,343 9.3%	85,591 4.6%	1,877,256 100.0%
増減 (H27-H29)	102,429 7.6%	-13,683 -11.9%	-2,439 -4.2%	38,779 39.8%	-262 -36.9%	29 0.8%	2,311 1.3%	-3,202 -3.7%	123,963 6.6%



(2)各課・局別

	総務課	企画課	情報政策課	農林課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	税務住民課	支所管理局	観光商工課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合 計
H 2 9	179,636 9.0%	3,769 0.2%	56,760 2.8%	70,871 3.5%	19,856 1.0%	183,837 9.2%	181,924 9.1%	1,230 0.1%	172,307 8.6%	353,668 17.7%	374,102 18.7%	148,147 7.4%	255,111 12.7%	2,001,219 100%
H 2 7 (基準年度)	169,347 9.0%	4,533 0.2%	29,043 1.5%	74,970 4.0%	24,117 1.3%	177,274 9.4%	176,497 9.4%	1,401 0.1%	174,269 9.3%	314,446 16.8%	325,392 17.3%	143,909 7.7%	262,059 14.0%	1,877,256 100%
増減 (H27-H29)	10,289 6.1%	-764 -16.9%	27,717 95.4%	-4,099 -5.5%	-4,261 -17.7%	6,563 3.7%	5,427 3.1%	-171 -12.2%	-1,962 -1.1%	39,222 12.5%	48,711 15.0%	4,239 2.9%	-6,948 -2.7%	123,963 6.6%
各課ごとのCO2排出量の増減内訳														
電気	2,890	0	27,717	-1,117	-2,696	2,799	3,440	0	9,194	30,745	26,933	-1,574	4,098	102,429
灯油	251	0	0	981	0	451	1,239	0	-10,501	0	316	2,243	-8,662	-13,683
A重油	0	0	0	-2,439	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-2,439
LPG	4,814	0	0	-289	0	6,370	-1,670	0	-238	7,982	21,962	-85	-67	38,779
施設ガソリン	0	0	0	-232	0	0	0	0	0	0	-61	20	12	-262
施設軽油	0	0	0	-664	0	0	0	0	0	0	0	693	0	29
車両ガソリン	1,453	-764	0	-806	-1,565	1,515	1,220	-171	-275	495	-641	2,121	-271	2,311
車両軽油	882	0	0	468	0	-4,571	1,198	0	-142	0	200	822	-2,058	-3,202
計	10,289	-764	27,717	-4,099	-4,261	6,563	5,427	-171	-1,962	39,222	48,711	4,239	-6,948	123,963

※島田消防署川根北出張所（総務課）、自然村休養村管理センター（支所管理局）、温泉施設・宿泊施設・キャンプ場（観光商工課）は電気使用量のみ対象

○電力使用量

目 標	7月から9月を重点強化期間として節電に取り組む
-----	-------------------------

(1)重点強化期間(7月～9月)

(1)重点強化期間(7月～9月)												単位: kwh
	総務課	情報政策課	農林課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	支所管理局	観光商工課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
H 2 9	73,101	32,771	27,966	7,297	17,989	51,945	36,035	163,850	171,074	71,185	108,206	761,419
H 2 7	79,760	6,396	28,637	8,663	17,154	48,337	28,800	147,984	155,214	74,165	98,526	693,636
増 減 (H27-H29)	-6,659	26,375	-671	-1,366	835	3,608	7,235	15,866	15,860	-2,980	9,680	67,783
	-8.3%	412.4%	-2.3%	-15.8%	4.9%	7.5%	25.1%	10.7%	10.2%	-4.0%	9.8%	9.8%

(2)年 間

単位：kwh													
(2)年 間		総務課	情報政策課	農林課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	支所管理局	観光商工課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
H 2 9		293,625	114,205	109,831	30,993	91,902	197,579	147,094	611,366	661,545	242,443	403,547	2,904,130
H 2 7		287,811	58,437	112,078	36,418	86,270	190,657	128,595	549,504	607,353	245,611	395,301	2,698,035
増 減		5,814	55,768	-2,247	-5,425	5,632	6,922	18,499	61,862	54,192	-3,168	8,246	206,095
(H27-H29)		2.0%	95.4%	-2.0%	-14.9%	6.5%	3.6%	14.4%	11.3%	8.9%	-1.3%	2.1%	7.6%

CO2 排出量の削減については、27 年度対比 2%削減を目標とし、これに与える影響が大きい電力使用量の削減にも注意して 1 年間取り組んだ。

その結果、27 年度対比 6.6%の増加と目標を達成することができなかった。今後、より一層知恵と工夫を出しあい目標達成のための取り組みをしていく必要がある状況となっている。

電力使用量については、重点強化期間・年間ともに 27 年度対比で増加している。特に情報政策課は、27 年度途中に開始した高度情報基盤事業により、大幅な増加となった。また、教育総務課は 28 年度から若者交流センター奥流の運営を開始したことにより増加となった。高度情報基盤事業及び奥流の使用量を差し引いた場合も、年間 2.7%の増加となったが、節電に対する職員の意識は定着されている。

今後は、30 年度から開始するカーボン・マネジメント強化事業により、照明の LED 化など省エネ機器の導入を進めることで、電力使用量や CO2 排出量の削減が期待できる。

○ゴミ排出量の内訳

2. ゴミ排出量				目標		平成27年度対比0.7%削減				実績		増減なし		単位: kg			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計				
H29	980.5	810.3	880.6	762.2	765.9	791.8	928.7	925.0	954.6	703.0	814.0	1,021.2	10,337.8				
H27	1,036.0	758.5	888.0	895.4	780.7	777.0	821.4	865.8	895.4	725.2	847.3	1,047.1	10,337.8				
増減	-55.5	51.8	-7.4	-133.2	-14.8	14.8	107.3	59.2	59.2	-22.2	-33.3	-25.9	0.0				
	-5.4%	6.8%	-0.8%	-14.9%	-1.9%	1.9%	13.1%	6.8%	6.6%	-3.1%	-3.9%	-2.5%	0.0%				

ゴミ排出量については、27年度対比0.7%の削減目標に対し、増減なしと目標には及ばなかった。廃棄文書の適正処理に関する意識付けは定着し、紙文書の再資源化は推進できている。今後、それぞれの課（局・施設）において、今一度排出状況を確認した上で取組みを進めていく。

○紙使用量の内訳

3. 紙使用量		目 標		平成27年度対比3%削減				実 績				0.9%増加		単位:枚			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計			

紙使用量については、27年度対比3%の削減目標に対し、0.9%増加と目標には及ばなかった。紙使用量の削減には職員個々の意識向上が重要であることから、両面印刷の徹底、資料の共有・簡素化、庁内LANの活用など、紙使用量の削減に繋がる対応の周知により一層取り組んでいきたい。

〇水使用量の内訳

4. 水使用量		目標	平成27年度対比0.4%削減		実績	6. 2%増加	単位：m³
	第1四半期		第2四半期	第3四半期	第4四半期		合計
H29	5,390		17,656	6,718	10,394		40,158
H27	7,022		15,242	5,668	9,878		37,810
増減	-1,632		2,414	1,050	516		2,348
	-23.2%		15.8%	18.5%	5.2%		6.2%

※島田消防署川根北出張所(総務課)、自然村休養村管理センター(支所管理局)、温泉施設・宿泊施設・キャンプ場(観光商工課)は除く

水使用量については、27年度対比0.4%の削減目標に対し、6.2%増加と目標には及ばなかった。ただし、28年度に運営を開始した若者交流センター・奥流の使用量を差し引いた場合は、4.4%の削減となり削減はできている。使用量が多い夏場における節水の呼びかけを行うなど、今一度節水を心がけることで今後とも削減に取り組みたい。

〇グリーン購入の内訳

5. グリーン購入		目標	平成27年度対比7%向上		実績	6. 6%低下
	物品購入 全体		うち グリーン購入物品		グリーン購入率	
H29	81 品		53 品		65.4%	
H27	83 品		60 品		72.0%	

共通の消耗品については、総務課にて一括購入するため、グリーン購入を意識して購入しているが、各課(局・施設)において個別で購入する消耗品等においても、可能な限りグリーン購入を推進するよう努めていきたい。

VI 環境活動計画と取組結果、評価及び次年度の取組内容

1 全庁・全施設

実施項目	評価	H30
◎電気使用量の削減	○	継続
事務室内の照明は、自然光で必要照度が得られる場合には可能な限り消灯する。	○	継続
トイレや会議室、更衣室等の使用頻度が低い場所の照明は、普段は消灯し必要な場合のみ点灯する。	○	継続
定時退庁日の取組を徹底する。	△	継続
照明機器は、可能な限りLED等の省エネルギー機器へ転換する。	○	継続
ノートパソコンは、離席時や着席時でも長時間使用しない場合はふたを閉じる。1時間以上離席する場合は電源を切る。	△	継続
デスクトップパソコンは、スリープモードの開始時間を5分に設定する。1時間以上離席する場合は電源を切る。	△	継続
コピー機及びプリンターは、平日は省エネモードにし、夜間・休日は主電源を切る。	○	継続
冷暖房の設定温度は、冷房28℃、暖房20℃とする。扇風機を併用して効率的な空調管理を行う。	○	継続
18時以降は空調は使用しない。(扇風機は使用可)	○	継続
使用していない部屋の空調は停止する。	○	継続
クールビズ、ウォームビズを実施し、冷暖房の使用を抑制する。	○	継続
エレベーターの使用を控え、階段使用を励行する。	○	継続
テレビ、電気ポット、電子レンジ等の電化製品の使用は必要最低限とする。	○	継続
◎施設における燃料使用量の削減	○	継続
ボイラー機器の定期点検、適正管理を行い、燃料の損失を防ぐとともに、不具合を早期発見し修繕を行う。	○	継続
ボイラー機器等は、可能な限り省エネルギー機器へ転換する。	○	継続
◎車両における燃料使用量の削減	○	継続
車両購入の際は、環境負荷低減に配慮した製品を選定する。	○	継続
公共交通機関の利用、公用車の相乗り等により、公用車の使用削減に努める。	○	継続
アイドリングストップや低燃費運転を励行する。	○	継続
定期的に車両の整備・点検を実施し、燃費を向上させる。	○	継続
◎廃棄物の削減、リサイクルの推進	○	継続
使い捨て製品の使用や購入を抑制する。	○	継続
リターナブルボトルの製品を優先的に使用・購入する。	○	継続
丁寧な使用、修理等を行い、備品・製品の長期使用に努める。	○	継続
分別回収ボックスの設置や掲示物の掲示により、来庁者や施設利用者に対する分別を呼びかける。	○	継続
ミスプリ用紙、古封筒、付箋等、紙製品のリサイクルを徹底する。	○	継続
シュレッダーの使用は必要最小限とし、機密を保持した上でリサイクルを行う。	○	継続
両面印刷・両面コピーを徹底する。	○	継続
庁内資料は再利用紙を使用する。	○	継続
グループウェアを活用し、紙使用量を抑制する。	△	継続
資料の簡素化、作成部数の見直しにより、紙使用量を抑制する。	○	継続
コピー、印刷時には、サイズ・色・方向等を確認し、ミスプリントを防ぐ。	○	継続
保存年限を経過した文書は定期的かつ適正に処分し、リサイクルを推進する。	○	継続
廃食油を回収し、ゴミ収集車の燃料(BDF)としてリサイクルする。	○	継続
廃棄物管理票(マニフェスト)に基づき、適正な廃棄物の処分を行う。	○	継続
◎水道使用量の削減と健全な循環形成	○	継続
手洗い、洗い物等、日常の節水に心がける。	○	継続
トイレ内に掲示物を掲示し、来庁者・施設利用者へ節水の協力を呼びかける。	○	継続
バルブを調整し、水量・水压を適正に保つ。	○	継続
水道使用量の定期点検を実施し、漏水等の不具合を早期発見し修繕を行う。	○	継続
雨水利用設備等を設置し、雨水利用を促進する。	×	未実施
合併処理浄化槽への転換を進め、適正な排水処理を行う。	○	継続
◎事務用品購入における環境配慮	○	継続
エコマーク商品を積極的に購入する。	△	継続
消耗品や備品、建築物の新築・増改築に対し、積極的に木製品を購入・使用する。	○	継続
FSC森林認証紙、ふじのくに森の町内会間伐に寄与する紙を積極的に採用する。	○	継続
◎フロン排出抑制法	○	継続
エアコン、冷凍冷蔵庫の定期点検を実施する。	○	継続

【評価】○:実施(評価)できている △:一部改善の余地あり ×:実施(評価)できていない

2 各課（局・施設）

課（局・施設）名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
総務課	紙使用量を平成27年度基準値に対し、3%削減する	総務課のみならず、紙使用量の削減を全職員に注意喚起し、職員個々に削減に努める	課長会等で紙使用量削減の周知	継続して課長会議等で紙使用量の減量をアナウンスしてきたことにより、資料の簡素化やグループウェア上で確認できるものは印刷しないなど、組織全体で努めた。再利用紙の使用など意識改革も進んだと考える。 1年間の実績としては、目標とした「紙使用量を平成27年度基準値に対し3%削減する」を上回る約6%の削減となり、目標に到達した。 引き続き、意識を高め、全庁で紙使用量の減量に努めたい。
企画課	業務説明資料(行政資料)の作成、改訂、更新による事務の合理化・効率化を図る	- 行政資料の見直し・更新 - 新規事務の行政資料の作成 - 課内での情報の共有	- 行政資料の作成・更新 - 新規作成:15件 - 更新:34件	全ての項目について作成できなかったが、(不要と判断し意図的に作成しなかったものを除く)今後は作成した資料を定期的に更新することで、業務の可視化を進め、課内での情報共有に努めていきたい。また、年度内に作成できなかった項目についても、適宜作成作業を進め、課の業務全体を網羅した資料とすることで、より質の高い資料としていきたい。
情報政策課	告知端末機及びホームページの 利活用による紙資源使用の削減 ・告知端末機お知らせ配信:年間120件(月平均10件) ・ホームページ掲載情報:年間180件(月平均15件)	町民へのお知らせ等はホームページや告知端末機に掲載し、紙資源の使用は必要最小限とする。また、職員に対しホームページや告知端末機の利活用についての呼びかけを行う。	・告知端末機お知らせ配信:年間220件(月平均18.3件) ・ホームページ掲載情報:年間266件(月平均22.2件)	年間件数としてはお知らせ配信が220件(月平均18.3件)、ホームページ掲載が266件(月平均22.2件)と計画を上回っており一定の評価はできると考えるが、月によっては計画を下回っており、またホームページの掲載件数と比較してお知らせ配信の件数が少ない状況にあることから、積極的な利用と相互の連動についての職員への周知を強化し、紙以外の情報媒体の更なる利活用促進に努める。

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
農林課	野生鳥獣による農林作物等への被害軽減を図る	野生鳥獣有害捕獲事業により捕獲を実施する	猟友会へ捕獲依頼	計画書を作成することにより、捕獲体制、捕獲頭数等、進捗状況を定期的に確認しながら実施することができた。 結果、農林産物の被害軽減を図ることができた。 次年度においても、従来どおり計画的に実施していく。
農林業センター	町民の手本となる圃場管理	防除基準の遵守と適期防除の推進	病害虫防除:6回(6月、7月(2回)、8月、11月、3月)	月によって若干の変更はあったが、年間を通してほぼ計画通り防除を行った。 防除作業については、職員で注意点を確認しあい、適正な着衣での作業を心掛けた。 夏場の暑い時期には適宜休憩を取って作業すること を注意し、次年度も同様に作業を行っていく。
茶茗館	茶茗館環境エコの実践、啓発	- 道の駅利用者及びイベント来場者へのアイドリングストップの啓発 - 盛夏に涼に親しむイベントの実施	- アイドリングストップの掲示物を駐車場に掲出 - 緑のカーテン設置	本年度は昨年を上回る来館者であったことから、冷暖房機の使用量を抑えることができなかった。 ただ、初夏に取り組んだ緑のカーテンは、花が咲きほこる頃には来館者から好評を受け、節電効果とも相まって効果を挙げた。この取組みは来年度も実施し て行きたい。 なお、本年度新たに電気自動車の充電スタンドを設置し、環境負荷の低減を図る取組みを始めたことは、本事業の理念に合致する取組みだと考える。
建設課	紙使用量の削減	入札や見積り時の設計図書の電子データ化	課員への電子データ化の呼びかけ及び徹底	年間を通して紙媒体での提供を控え電子データを皆が一貫して提供できた。次年度には、次の取組目標を設定し、具体的な数字目標も設定できる内容も模索したい。

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
高齢者福祉課	資源の再利用と経費削減への意識の向上を図りながら、厳格な文書管理を実施する	・関係機関への文書は連絡封筒等を使用する ・コピー用紙の利用は最小限になるように工夫する ・再利用できるものは有効に利用する ・機密文書の厳格な管理・処理	・資源の有効利用並びに個人情報情報の適正管理の課内周知 ・古封筒、ミスプリントの再利用 ・機密文書の適正な管理及び廃棄	総合的判断として、再利用紙の分別の意識は高まってきた。また再利用紙をメモ用紙に活用するなど見受けられた。
健康福祉課	健康福祉イベントを通じた温暖化防止・環境美化のPR	課内主催で行うイベント(街頭啓発や式典等)開催後に当日参加した課職員による10分間ゴミ拾い活動を実施し、地球温暖化防止や環境美化をPRする	・ゴミ拾い活動 ・古封筒、ミスプリントの再利用 ・ウォームビズの励行	今年度はイベントでのゴミ拾いによる広報活動を実施した。(年間回数5回) 年間ではイベントが無い月があるため、そういった月には今年度は昨年と同様の文書整理等を実施した。イベントの無い月のことは、あらかじめ想定できのて前もって考えておくことが必要であった。 次年度は、課内で検討しEA21の取り組み目標をしっかり決定していきたい。
桜保育園	・食育活動の充実 ・環境教育の推進	・園児と栽培やクッキング、土壌作りに取り組む ・園から排出するごみの減量	・乾燥生ごみ・落ち葉を利用した堆肥作り ・資源紙の分別 ・野菜の栽培計画、種まき、収穫 ・クッキング計画の作成及びクッキングの実施 ・グリーンカーテン作り	保育園でできることを考え、年度初めに栽培物やそれを利用したクッキングの計画を施行してきた。畑の土壌作りに、給食から出る生ごみを乾燥させて肥料(年間90kg)にしたり、園庭の木々の落ち葉を集めて、米ぬかと一緒に土に混ぜたりして有効利用に努めている。今後も食育と絡ませながら、子どもたちの活動に取り入れていきたい。 また、資源紙を日頃から分別をするようにし、段ボールを年間90kg資源紙106kgをリサイクルに回すことができた。保育の中で子どもたちもゴミと資源紙を分けて袋に入れることも身につけてきて園全体でこれからも取り組んでいきたい。 今年は気候の影響でエアコンの利用が増えたが、給食や午睡をークラスで行うなど、できる範囲の努力をして電氣量を抑えることができたと思う。来年度も室温、湿度、エアコン使用時間を記入し節電に心掛けていきたい。

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
三ツ星保育園	園生活の中での栽培やゴミの分別等の活動を通して、環境教育の推進に取り組む	・身近な自然を活用して土壌作りに取り組む栽培活動等に繋げる ・生活ごみの分別を行う事を通して、環境に優しい生活について学ぶ機会を作る	・乾燥生ごみ・落ち葉を利用した堆肥作り ・資源紙の分別 ・野菜の栽培計画、種まき、収穫 ・クッキング計画の作成及びクッキングの実施 ・グリーンカーテン作り	年間を通して、乾燥生ごみや資源紙の量を計り、記録するようにしたこと、取り組みの数値的成果が目に見えて分かり意識を高めることに繋がった。資源紙については、職員だけでなく園児に対しても分別の大切さを伝え日常的に取り組んだこともあり、ゴミ袋削減に繋がったと思うが、ゴミ袋の使用枚数をこれまで記録していなかったこともあり、数値的な比較はできなかった。今年度の取り組みを数値化した事で、今後は比較する事ができ、次年度からの取り組みの目安になると思われる。また、室内の室温度及びエアコン使用時間を記録する事で、生活環境を整えながら、エアコン使用時間を意識する事もできた。様々な取り組みを数値化する事で、具体的な取り組みの成果も見えてくるので、今後も意識して取り組んでいきたい。
くらし環境課	業務説明資料(行政資料)・業務マニュアルの作成・更新を行い、事務の合理化と効率化を図る	・行政資料の作成・更新 ・業務マニュアルの作成・更新 ・課内での情報共有	・行政資料の作成・更新 新規作成:1件 更新:11件 ・業務マニュアルの作成 新規作成:2件	思ったように活動件数を伸ばすことができなかった。次年度は数値目標を定める等、具体的な計画を立て取り組みを行いたい。
税務住民課	資源の再利用及びPC等の電源OFFの徹底	・環境負荷軽減のため、再生紙の利用、可能な限り両面コピーでの印刷の徹底を図る ・各自PCを省電力モードに設定し、未使用時の電源OFFを徹底する	・両面印刷・再生紙の利用 ・PCの電源OFF	年間を通して、課員全員が両面印刷・再生紙の利用やPCの電源OFFに心掛け、実施することができた。今年度から共有で使用する端末やコピー機の台数が増え、業務終了後に使用しない機器は早めに電源を切るよう努めることができた。来年度は今年度の反省を生かし、課員全員で取り組みたい。

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
会計課	- 電力使用の削減 - CO2排出量の削減	- 月曜日と水曜日に定時退庁徹底 - 始業前と昼休みの照明消灯徹底 - 保存ファイル、紙の再利用	- 月曜日・水曜日の定時退庁の徹底達成率: 94.5% - 始業前・昼休みの消灯達成率100% - ファイル再利用達成率73.7%	ノ残業デイについては、定時退庁の意識を持ち一年を通して概ね達成できた。次年度も月曜日と水曜日の定時退庁をするという意識をもって業務に取り組むたい。 始業前、昼休みの照明消灯については、課内全員が意識して取り組めたと考えられる。 ファイルの再利用については、サイズが同じものはずべて再利用し、概ね達成できた。次年度も続けていきたい。
議会事務局	議員の資源節約の意識を啓発し、事務の合理化を推進する	- 議員改選期であり、議会の取り組みを周知する - 通知等配布方法の簡略化	- 文書棚及びメールの活用 - メール利用率: 91.6% - 議員用文書廃棄ボックスの設置	前年度に引き続き、湯飲みの再利用や文書棚及びメールを活用することにより通知等配布の簡略化に努めるとともに、事務の簡略化及びペーパーレス化を目的に議員のPC研修を行うことを目的とした。 継続部分の特にメール利用率については、前年に比較して連絡の行き違い等もなく、効率的に行うことができたが、実施率100%を目標としたい。 PC研修についての取り組みができなかった。議員間の個人差が大きく、全議員対象の研修の計画は困難であるため、PC活用の機会の多い広報委員会をメインにおいて、研修の計画を立てることが有効であると考えられる。
支所管理局	エコアクションへの取り組みの啓発	紙の使用量、カラーコピーの使用を最小限にし、経費削減に努める(PCによる内容周知・ミスプリントの削減、再利用に努める)	- 職員へ紙使用量削減の周知 - ミスプリントの再利用	本年度における活動内容は、個々において常日頃から削減しようとする意識が非常に重要である。 また、室内において朝礼、終礼を利用しお互いに注意をしようなどの呼びかけも大変重要なことである。 ミスプリントの再利用については、再利用できる紙とできない紙を別々の箱を用意し対応する。再利用をする紙においては個人情報等の漏洩についても十分注意をする必要がある。

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
観光商工課	南アルプスユネスコエコパークの普及啓発、エコツーリズムの推進	・エコパークの普及啓発活動:10回(講座5回、活動5回) ・エコツーリズム実践(委託):65回	・エコパーク普及啓発活動:15回(講座9回、活動6回) ・情報発信施設巡回 ・情報発信施設研修:2回 ・エコツーリズムプログラム支援:65回	南アルプスユネスコエコパークについては、当初計画を実施中に見直し、情報発信施設の機能強化を行う(研修会及び施設における概要説明パネル製作)とともに、企画課が所管する千年の学校事業の依頼を受けて公開講座を実施した。また、大井川鐵道井川線の協力の下に南アルプスユネスコエコパークロゴマークを普及するため、井川線車面にロゴマークをヘッドマークとして掲出することを開始した。これにより、継続性のある町民向け、交流人口向け両面での普及について強化することができたと考える。 エコツーリズムについては、町からエコティかわねという実践団体に対して委託業務として実施するプログラムは計画通り行われ、町委託業務以外のプログラムも実行された。平成30年度からは、プログラム実施型からのステップアップをしていくような事業に工夫をしていきたいと考えている。
奥大井音戯の郷	音戯の郷施設環境エコ活動	・施設利用者への節電啓発活動 ・グリーンカーテンの設置	・節電啓発告知 ・グリーンカーテン設置 ・管理棟LED化工事	電気・LPG・水道・ガソリン全てにおいて基準年を上回る結果となった。電気・LPGについては、LED化を今後進めていくとともに、空調機稼動時間の短縮等で使用量の削減を図りたい。水道については、来館・入館客が増えたことによるトイレ使用回数の増加とみられるが、手洗い場等はセンサーによる自動停止機能がついているため、その他水道利用している箇所での節水に努めたい。ガソリンについては、必要以上を使用しないよう心掛けたい。

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
教育総務課	環境教育の推進	町内の児童・生徒に対して、地域資源等の重要性が学べる機会を提供する	・所管施設へ節電・節水の周知 ・環境関係講演会に参加(中高生等)	年間を通して、児童・生徒の節電と節水に対しての意識が向上したと感ずる。 次年度については、成果が数値化できるものを目指したい。
学校給食共同調理場	学校給食の残量の減量	給食の残量の削減を目指すとともに に残食の適正な処理を行う	・主食残量:224kg(計画:141kg) ・おかず残量:404kg(計画:277kg) ・食に関する指導の実施	前年度に比べ栄養教諭が精力的かつ適時に学校への訪問や指導を実施した。 特定のクラスで非常に残食が多く、栄養教諭だけでなく当該学校内での指導の実施を希望する。 ただ全校平均に比べ本町は残食率はかなり低く、地産地消も推進されているのでその点を保ちつつ、引き続き安心安全な学校給食の提供をしていきたい。

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
社会教育課	環境教育の啓発	地域で取り組む生涯学習事業など「環境保護」をテーマとした学習機会の開催(10回以上)	・地域で取り組む生涯学習事業28地区の自治体で実施 ・海の子山の子交流教室2回開催 ・ふるさと発見団4回開催 ・放課後子供教室9/7～3月 毎週水曜に実施	「地域で取り組む生涯学習事業」や「ふるさと発見団」、「海の子山の子交流教室」でそれぞれ環境学習をメニューに取り入れて事業を実施した。今後も社会教育課ならではの観点から推進していきたい。
文化会館	・施設利用者数を維持し、電気使用量を前年度より減らす ・市民の環境意識の向上	・文化会館事業の促進とTPOに合わせた照明・空調利用を心掛け、節電に努める ・環境教育目的のイベント開催	・電力量デマンド監視システムによる節電の実施 ・環境関係イベント(展示会)の実施	昨年度から電力量デマンド監視システムを導入し、最大消費電力量を常に監視し節電を実施している。結果、基本料金が下がりがコスト削減に成功した。 会館利用者が増えるということは施設利用頻度が増え、エアコンや照明など使用時間が増加し結果、電気使用量も増加するため利用者と電気使用量は相反する関係にあるが、今後も電力を消費する時間帯をずらして電力需要ピーク時における電力消費を抑える努力を継続したい。 また、ピーク電力を抑えるだけでなく、消費電力全体を抑えることを検討したい。 文化拠点としての役割を考え、環境に関する定期的なイベントを開催し好評を得て一定の効果があった。
B&G海洋センター	エネルギーの有効活用による施設利用者への快適な利用環境の提供	施設で使用する電気や水道、灯油などのエネルギー使用の削減を図りながら、施設利用者への快適な利用環境を提供する	・不用照明の消灯、水道・ガスの適正使用の徹底と利用者への啓発の実施 ・プールボイラーの適正使用	高熱水費の主だった電気量、水道量については対前年度比で大幅に伸びてしまった。要因として電気量は毎朝の清掃の励行による掃除機の運用ではないかと考えている。水道量についても夏季プールの清掃に高圧洗浄機を多様したことによるものと推測している。省エネを実現したいと思うが、施設の美化も大切なことであるため、清掃の頻度を下げず、効率よく清掃をこなせるような工夫を次年度にはしていきたいと思う。

3 小中学校

校 名	件 名	活動内容	活動の成果、今後の展望等
本川根小学校	アマゴの放流をしよう	大井川をきれいにする環境保全と、川を正しく恐れて遊ぶための注意喚起を目的とする。 (1) 大井川漁協本川根支部の方のお話 (2) アマゴの観察 (3) アマゴの放流	漁協の方から、稚魚を育てる大変さや生き物を大切にしてほしいという内容の話があった。また、一昨年放流した川に帰ってきた魚の写真を見せてもらったことで、放流することへの意義を感じていた。児童は、3～5 cmの稚魚約1,500匹を、お碗を使って丁寧に放った。放流した後は、自分が放った魚がどのあたりに泳いでいるのか観察する児童の姿がたくさん見られた。 児童は、地域に豊かな自然があることが嬉しいと再確認していた。また、大きくなって戻ってきてほしい、大井川がアマゴでいっぱいになってほしいと感想で述べていた。稚魚を放流する中で、地域の自然のよさ、生き物が成長する大変さ、生き物の命の大切さを学ぶことができた。
	地域清掃活動	地域の清掃活動を行い、環境を整えることと地域への感謝の気持ちを表す。 ・落ち葉拾い ・ごみ拾い ・草取り	上級生は、事前に通学路の下見を行い、清掃する場所やどのように清掃するか等を考えた。充実した活動となるよう、下級生に指示を出したり、落ち葉拾い等の活動に一生懸命取り組んだりしていた。児童は「落ち葉がたくさんあってびっくりする。」「橋にはたくさん。きれいにしなげや。」「とつぶやきながら、時間の許す限り地域がきれいになるように取り組んだ。 事後の感想では、「地域をきれいにできて感謝を伝えられた。」「大変だったけれど、きれいになって嬉しかった。」という意見が出た。 自然に囲まれた町で生活していても、子どもたちの環境に対する興味はあまりない。こういった活動を通して、身の回りの環境に気付く目を養い、自ら進んで環境を良くしようと行動できる子を育てていきたい。

校 名	件 名	活動内容	活動の成果、今後の展望等
中川根 第一小学校	緑のカーテンで涼しく すごそう	1、2年生が育てるアサガオと4年生が育てるゴーヤ で緑のカーテンを職員室南側に設置した。学年で協力 して種まきから緑のカーテンの設置まで行なった。 (1) アサガオ・ゴーヤの種まき、網張り (2) 朝、帰りの水やり	学校の花壇でアサガオ・ゴーヤを育てることによって様々な成果があ った。1年生は、自分の植木鉢に植えたアサガオと花壇のアサガオを比べ て観察することで、植木鉢では見られないダイナミックなアサガオの 成長や特徴などにさらに興味・関心を芽生えさせることができた。また 5年生の理科の授業「植物の実や種子の働き方」では、実際にアサガオの 観察と実験をさせることで、めしべ・おしべの違いや受粉の仕方、受粉 の役割など、授業内容の理解につながることができた。 見た目で「涼しそうだ。」と言っていた子どもたちに緑のカーテンが、 実際に涼しいのかどうかを気温や照度の測定等の活動をさせることを通 して、実践可能なエコ活動を考えさせていきたい。
	緑活動	みんなで使いやすい校庭や学級園にしたり、四季折々 の花を育てる花壇にしたりするために、緑の少年団の 団長を中心に声を掛け合いながら、楽しんで活動する。 (1) 学級園の草取りをして、授業のための野菜や花 を植え、栽培する。 (2) 運動会に向けて、運動場の草取りをする。 (3) 卒業式、入学式に向けての花の苗を植える。	夏休み明けに学級園や花壇の草取りを行うことで、2学期に向けての 学習の見通しを各学年でもつことができる。自分が耕した場所、自分が 植えた食物という思いがあるため、進んで世話をする姿が見られた。ま た、実験を行ったときや収穫をしたときは、どんなに不出来な成長でも 大切に扱っていた様子が自らの手で育てることの意味を感じさせてくれ た。 9月下旬の運動会に向けて、全校で運動場の草取りを行った。その後は 「緑の少年団」のリーダーを中心に朝の時間や休み時間等を使って自主 的に草取りが行われていた。この取組は児童の意欲を高め、きれいにな った運動場のことを周りが褒められることでさらに活発に草取りが行 われた。 3月の卒業式に向けて、会場を彩る花をプランターに植える作業を1年 生から5年生で行った。学年の別なく作業をすることで、上級生が下級 生に教えながら協力する姿が見られた。 これからも緑活動を通して、自らの手で植物を育てたり、環境を整え たりすることで全校児童の「自分たちのもの」という意識をもたせたい。

校 名	件 名	活動内容	活動の成果、今後の展望等
中央小学校	宿泊体験活動	・町の自然の中で活動することを通して、自然への畏敬の念を抱き、たくましい心と体を育てる ・グループでの活動を通して、自分でできることに進んで取り組み、みんなと助け合う態度を育てる (1) ウォークラリー (2) キャンプ場でテント設営、飯盒炊飯、カレー作り、ネイチチャージャーゲーム（火起こし、ストーンペイント、石器作り） (3) ホタル観賞	ウォークラリーやキャンプ場での活動を通して、子どもたちは、町の豊かなさを感じ取ることができた。また、飯盒炊飯、カレー作りでは、火を起したり火力を調節したりすることの大変さや協力して料理することの楽しさ、普段の生活で何気なく使っている水道やガス、電気のありがたさなどを体験することができた。 今年度は、ウォークラリーや飯盒炊飯、カレー作り等の活動で、子どもたちの自主性を育てるために、教師は子どもの様子を見守ることを徹底した。この結果、ウォークラリーで道に迷ったときに地区の人に道を尋ねたり、夕食の準備で火がうまく起こせなかったときに、同じ班のメンバーと相談したりするなど、問題を自分たちで解決しようとする姿がいろいろな場面で見られた。来年度も活動内容を工夫しながら、自然に触れ、子どもの自主性を育むよい機会として宿泊体験活動を継続していきたい。
	自然薯のむかご採り体験、自然薯掘り体験	今年度、3年生の総合的な学習で「特産物から町の良さを見つけよう」をテーマに、お茶と自然薯の栽培について学習した。自然薯については、地域の方からの提案でむかご採りと自然薯掘りの体験を行った。	これまで自然薯についてほとんど知らなかった子どもたちだが、活動を通して、自然薯を収穫する喜びや自然薯が育つ町の豊かさを知ることができた。収穫したむかごや自然薯は、子どもたちが家庭に持ち帰り、調理して食べてもらった。活動のあと、保護者からよい体験ができたとの声が寄せられた。 何でも買えば手に入る環境にあるが、地域の食材に触れ、育てることの大変さや自然の恵みのありがたさを感じ、食べ物を大切にしようとする心を育てていきたいと考える。

校 名	件 名	活動内容	活動の成果、今後の展望等
中川根南部小学校	アースキッズ事業参加	県地球温暖化防止活動推進センターの方の指導により、子どもたちがリーダーとなり、家庭や学校で地球温暖化防止に取り組んだ。 (1) 各家庭における水道や電気の使用量を1週間調査。 (2) 地球温暖化の現状を知り、問題意識をもつとともに自分たちにできることは何か考える。(キックオフイベント) 講師：地球温暖化防止活動推進センター 全校児童参加 (3) 自分たちにできること(大作戦)を各家庭で実践し、使用量を1週間調査。 (4) 自分たちの大作戦を振り返る。(アースキッズセレモニー)	・地球温暖化講座、自動車発電体験、手回し発電、ごみ分別ゲーム、エコ生活大作戦を通して、地球温暖化の現状や仕組みを学びながら、温暖化防止に対する意識を高めることができた。 ・各家庭での使用量調査を通して子どもたちが学んだことを各家庭に広めることができた。子ども一人一人がリーダーとなり、進んで家庭で取り組むことができた。 ・学校生活の中でも、電気や水のむだ使いに対する意識が高まり、「エコだよ。」と、気づいて電気を消したり水をこまめに止めたりする姿が見られた。 ・セレモニーで、自分たちの取組によって、ペットボトル16,000本分のCO2を削減することができたことを知り、喜びとともに作戦の意味を実感できた。また、一人一人の取組を「リーダー認定証」という形で価値付けてもらい、取り組んだことに自信をもつことができた。
	緑の少年団活動「花いっぱい」の学校にしよう	落ち葉はきや花壇等で花を育てたりする活動を通して、自分たちの学校をより美しい学校にしようとする子どもを育てる。 (1) 校庭の落ち葉掃除 (2) 花壇の草取りや球根、苗植え、水かけ等の世話 (3) 大麦の蒔き、麦踏み	緑の少年団活動では、朝進んで落ち葉を掃く子どもの姿が見られた。その活動は、少年団のメンバーだけでなく、全校の子どもたちにも広がりが、みんなで学校をきれいにすることができた。また、花壇に植えた球根が芽を出した際には、「ちっちゃい芽が出たよ！」「いつ花が咲くかな」など植物の成長を楽しみにする声が聞かれた。毎日の水かけや花摘み等の世話を欠かさず行い、パンジーの花も大きく育ってきた。
	大井川を知る総合学習 出前講座	(1) 大井川の水の役割や豊かさを知る (2) 大井川の歴史を知る (3) 大井川に生息する生物を知る	大井川を知る出前講座では、講師の話しを聞き、自分たちが調べてきたことに付け加え、改めて大井川の水の豊かさや大切さを実感できたようだった。大井川の水の水質や水生生物、水源などに興味をもち、積極的に質問することができた。また、教えていただいたことをもとに、さらに自分なりに調べ分かったことをプレゼンテーション等にまとめ発表することができた。 今後も、学校をきれいにする活動や植物を育てたり身の回りの豊かな自然について学んだりする活動により、子どもたちの自然環境に対する意識の向上につなげていきたい。

校 名	件 名	活動内容	活動の成果、今後の展望等
木川根中学校	川根本町をよりよい町にしよう！	【前期】 自然体験活動や町内の施設の訪問、町の自然や福祉の現状を知り、よりよい町にするためにはどうしたらよいか、学ぶことを目的とする。 (1) 自然体験活動 ①町まるごと体験（地域めぐり及び自然体験活動） (2) 環境保全 ①資源回収、PTA 奉仕作業 ②緑のカーテン ③人権の花 (3) 福祉活動 ①福祉施設訪問	町の自然や福祉の現状を知る活動は、普段の学校生活でなかなか学ぶことができない。 しかし、今回のような活動を行うことで、町の雄大な自然や人々の暮らし、この町の良さや課題を知ろうとする生徒の姿が見られた。また、家庭での祖母との関わりを活かし、施設の利用者の方と積極的に関わる生徒もいた。 普段の生活では、美化・給食委員を中心としたグリーンカーテンの設置やひまわりの栽培等を通して、環境保全への意識を高めることができた。種から育てたゴーヤの芽が出たり、ひまわりの花が咲くと、世話をしていた生徒は喜び、他の生徒にも教える等の様子が見られた。
		【後期】 自然体験活動や町内の施設の訪問、生徒会活動での環境整備活動などを通して、町の自然や福祉の現状を知り、よりよい町にするためにはどうしたらよいか、学ぶことを目的とする。 (1) 自然体験活動 ①総合的な学習の調査学習 (2) 環境保全 ①資源回収、PTA 奉仕作業 ②美化委員を中心とした花を育てる活動 (3) 福祉活動 ①保育実習の実施 ②総合的な学習の調査学習	後期は特に、町の自然や福祉の現状を知る活動として、総合的な学習の時間を活用した。 1年生から3年生まで「町おこし」を大テーマとし、それぞれが自然や福祉など自分の興味のある分野から町の現状について調査し、そこからどんな町おこしができるかを考えて発表した。それを通して前期の活動の課題であった、よりよい町にするためにどうしたらよいかを考えさせることができた。1月の発表では、調査学習でお世話になった方や、地域の方をお呼びした。発表の最後は、地域の方からたくさんの質問をいただき、自分の学習を振り返ると共に、今後の総合的な学習の時間を深めていくための示唆をいただき、今後の方向性を考えることができた。 また、普段の生活では前期に引き続き、美化委員を中心とした花を育てる活動を通して、環境保全への意識を高めることができた。
中川根中学校	あすなる Day	毎週水曜日の朝、アルミ缶の牛乳パックの回収を福祉委員会が行った。	最初はもってくる生徒が少なかったが、福祉委員の呼びかけ等の活動でもってくる生徒が増えた。また、地域の方も協力してくれている。回収によって得たお金で町内の福祉施設に介護用品の寄付を行うことができた。来年度以後も続けていく予定である。

Ⅶ その他 平成29年度の活動内容紹介

(1) 緑のカーテン実施・啓発

夏季の暑さ対策と電力使用量の低下を目的として、庁舎に緑のカーテンを設置して 12 年目になります。今年は、朝顔で高さ 5m、幅 10m の緑のカーテンを作りました。また、この緑のカーテン普及促進のため、設置希望のあった地区と学校に土やプランター、ネット、種の配付も行いました。



また、中部電力から提供された朝顔の種 105 袋、ゴーヤの種 105 袋を、役場窓口などで町民の方へ配布しました。

(2) 川根本町の自然について学ぶ（ふるさと発見団、海の子・山の子交流教室）

川根本町の自然を知るための取り組みとして、ふるさと発見団では鈴木正文氏の解説による智者の丘公園での自然観察、三ツ星アストロノミークラブ（MAC）による天体観測を行いました。

夏季の自然観察では、身近に生えている植物に実際に触れたり、匂いをかいだりしながら、どのような特徴があるのか、どのような場所で育つのか等の説明を聞きました。また、偶然発見した虫などについても、詳しく説明を聞きました。

冬季の星の観察では、どのような天体や星、星座が見られるのか、どのように見えるのかを聞き、三ツ星天文台の望遠鏡を使って天体観測をしました。

海の子・山の子交流教室では大札山でハイキングを行い、エコティかわねの会員の方々にシロヤシオや山で育つ植物について説明を聞きました。また、山が果たしている役割について紙芝居を使って説明をしていただきました。

身近な自然について学ぶことによって、どのような自然環境の中で生きているのかを知り、ふるさととの自然環境について改めて考える機会となりました。



（３）地域緑化支援事業の実施

10 月に町内の花の会を対象として、地域緑化を促進するため球根や種などの資材を配布しました。

町内で活動している花の会より配付希望を受け、秋植えの球根や種、培養土、肥料などを、計 23 団体に配付しました。

春には町内各地で色とりどりのきれいな花が咲き、見る人の目を楽しませました。



（４）大井川を学ぶ視察会

大井川の河川環境と水利用の現状を知ってもらうための視察会を実施しました。

視察会は、源流域・中流域・下流域に分けて実施し、大井川を育む源流部の山々と清流の状況、ダムや発電所施設の状況、飲料水・農業用水・工業用水等の補給状況等、大井川が果たす多くの重要な機能について学びました。

視察域	開催日	参加者数
≪源流域≫ 二軒小屋（静岡市）～ 笹間川ダム（島田市）	平成29年10月19、20日	19名
≪中流域≫ 大井川ダム（川根本町）～ 神座分水工（島田市）	平成29年11月25日	25名
≪下流域≫ 川口発電所（島田市）～ 七曲調整池（菊川市）	平成30年 2月23日	32名



（５）大井川を知る総合学習「大井川出前講座」

子どもたちに大井川の現状とその環境について広く知ってもらうことを目的とした大井川出前講座を、流域の小学校 13 校で開催しました。

児童たちは、大井川の歴史をたどり、変化する大井川の役割と現状を学びました。

開催校	開催日	対象者数
御前崎市立白羽小学校	平成29年10月 2日	4年生 47人
川根本町立本川根小学校	平成29年10月 3日	4年生 11人
掛川市立土方小学校	平成29年10月12日	4年生 30人
島田市立金谷小学校	平成29年10月13日	5年生 84人
川根本町立中川根第一小学校	平成29年10月17日	3・4年生 21人
川根本町立中川根南部小学校	平成29年10月24日	4年生 7人
川根本町立中央小学校	平成29年10月26日	4年生 10人
菊川市立六郷小学校	平成29年10月31日	4年生 90人
島田市立湯日小学校	平成29年11月 6日	5年生 4人
牧之原市立勝間田小学校	平成29年11月 6日	4年生 19人
吉田町立中央小学校	平成29年11月 7日	4年生 121人
菊川市立小笠南小学校	平成29年11月10日	4年生 28人
菊川市立加茂小学校	平成29年11月28日	4年生 54人
計	13回	526人



Ⅷ 川根本町が実施する町民向け補助事業

川根本町では、環境負荷の少ないエネルギーの利用、資源有効利用、地球温暖化防止、町民との協働による自然に癒されるふるさとづくりの推進等を目的に、以下の補助金制度を実施しています。

（１）川根本町クリーンエネルギー機器導入促進事業費補助金

太陽光発電システム等を設置する場合の購入費用及び設置費用を助成します。

【平成 29 年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
太陽光発電システム	6	1,152千円
エコキュート	11	550千円
太陽熱温水器	5	250千円
高効率給湯器	4	120千円
計	26	2,072千円

（２）川根本町^{もり}森林のエネルギー導入促進事業費補助金

薪などの木質燃料のストーブ・給湯ボイラー・風呂釜を設置する場合の購入費用及び設置費用を助成します。

【平成 29 年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
薪ストーブ	3	150千円

（３）川根本町生ごみ減量促進事業費補助金

生ごみ処理機等の購入費用を助成します。

【平成 29 年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
乾燥式	11	362千円
容器式	1	1千円
バイオ式	0	0千円
計	12	363千円

(4) 川根本町合併処理浄化槽設置整備事業費補助金

合併処理浄化槽の設置費用を助成します。

【平成 29 年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
合併処理浄化槽	15	6,161 千円

(5) 川根本町古紙等資源集団回収奨励金

古紙類、ビン類、缶類の回収を行った団体（自治会、小中学校、子供会、PTA 等）に対し、奨励金を交付します。

【平成 29 年度の実績】

交付件数	参加団体数	回収量	奨励金交付額
47	10	196,228 kg	982 千円

(6) 川根本町防犯灯整備事業費補助金

防犯灯整備事業を実施する区自治会に対し、補助金を交付します。

【平成 29 年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
新設（支柱新設）	4 基	1,363,300 円
新設（電柱共架）	14 基	
交換	82 基	

(7) 川根本町少量危険物貯蔵施設防油堤整備事業費補助金

少量危険物貯蔵施設防油堤を設置する方に対し、補助金を交付します。

【平成 29 年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
防油堤整備	0	一千円

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

平成 29 年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、法令違反や事故、異常事態の発生は報告されておられません。

また、過去 3 年間にわたって違反・訴訟もありません。

遵守状況チェック日 平成 30 年 2 月 28 日

○関係法令

法律名	関係業務	関係課	遵守状況
環境基本法	・環境関連施策全般	全庁	○
循環型社会形成推進法	・循環型社会の構築	全庁	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	・町施設における温暖化対策 ・住民、事業所への働きかけ	全庁	○
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	・町施設における物品購入、使用時の環境配慮	総務課 全課	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物関連施策の実施 ・事業から排出される廃棄物の処理	全庁	○
資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	・庁舎におけるごみの分別、再利用等 ・分別収集の啓発	くらし環境課 総務課 他	○
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律（容器包装リサイクル法）	・廃棄物関連施策の実施 ・事業から排出される廃棄物の処理	全庁	○
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	・特定家電製品の廃棄、リサイクル券の購入	総務課 特定家電使用課	○
食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）	・食物残渣等のリサイクル	給食センター	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	・公共事業における建設廃棄物の再資源化と再利用の促進 ・地域における資材の再資源化の促進	建設課 関係課	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	・公用車の廃車時における環境配慮 ・購入・更新・車検時のリサイクル券の購入	関係課	○
水質汚濁防止法	・庁舎・施設からの排水の基準遵守	総務課 各施設	○
大気汚染防止法	・ボイラ等のばい煙発生装置の使用 ・ボイラ及び冷温水発生機の使用	海洋センター	○

法律名	関係業務	関係課	遵守状況
騒音規制法	・ 公共事業における騒音への配慮	建設課 関係課	○
振動規制法	・ 公共事業における振動への配慮	建設課 関係課	○
悪臭防止法	・ 地域における悪臭の防止	くらし環境課	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)	・ エネルギー使用量の把握 ・ 省エネの推進	総務課 くらし環境課 全庁	○
浄化槽法	・ 適正な浄化槽の管理	総務課 関係施設	○
消防法	・ 石油製品の大量貯蔵	海洋センター	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理に関する特別措置法	・ PCB の適正な管理及び処理	総務課 教育総務課	○
フロン排出抑制法	・ エアコン、冷凍冷蔵庫の定期点検の実施	総務課 関係施設	○

X 代表者による評価と見直しの結果

当町は今年度、川根本町景観計画の策定を予定しています。当町の景観は、豊かな自然と気候や人の営みにより育まれた美しい景観が特徴です。計画の策定は、その景観を次代へ引き継ぎ、町民が誇りと愛着をもつことができる良好な景観をつくり、併せて観光交流にも役立てていくことを目指し、町や町民、事業者が一体となって取り組んでいく基本的な方向性を示すことを目的としています。

この計画では、町が目指す景観の姿を「人の営みにより育む、自然と調和した魅力と活力のある景観」とする予定です。

目標の実現には、環境への取り組みも益々重要となります。社会経済を営む事業活動は、自然への負荷となりますが、大きな企業や工場が少ない当町においては、役場自体が大規模事業所に該当します。町施設の省エネ、省資源への取り組みは、地域全体においても大きな影響を与えることとなります。そのような中、エコアクション21の取り組みにより、今後も環境保全の取り組みを適切に実施し、より良好な環境の整備を進めて行きます。

平成29年度における各課及び各施設での個別の取り組みについては、様々な要因により目標の達成ができなかったものや、計画どおり実施できなかったものがありますが、その原因を分析し、目標達成に向けて事務事業の改善に反映させる取り組みが大切であり、この取り組みが全体ではありませんが、行えている点は評価できます。

多岐に及ぶ町の業務の全てを環境と関連付けることは難しい面もありますが、環境に配慮し、事務や事業を実施する意識はこれまでの取り組みにより定着しており、今後も環境に配慮した取り組みを多岐に広げていくことにより、より質の高い行政サービスにも繋がっていくと考えます。

当町がキャッチフレーズとして掲げる「水と森の番人が創る癒しの里」の姿が、日本国内だけでなく、世界に誇れる姿となるよう、今後も地域の人々の暮らしと産業及び経済を支える、自然を守る番人として、町の財産でもある豊かな自然を守りつつ活かしながら、“自然と共生する豊かなまち 川根本町”を実現するよう、今後もまちづくりを進めてまいります。

平成30年6月18日

川根本町長 鈴木 敏夫

川根本町役場 エコアクション 21

環境活動レポート

川根本町くらし環境課環境政策室

〒428-0313

静岡県榛原郡川根本町上長尾627

TEL: 0547-56-2236

FAX: 0547-56-1117

E-mail: kurashi-kankyo@town.kawanehon.lg.jp

ホームページ: <http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp>